

Number 1

[低損失世界No.1]



リカロイ™インダクタ/リアクトル

地球温暖化防止に向け、近年、CO₂排出削減への取り組みが世界的に重要な課題となっています。電子産業界においても各種機器では、多機能化と高性能化に加えて、消費電力をより一層低減することが求められています。

そこで、磁気ヘッドをはじめ、アルプス電気が長年、磁気デバイス開発で培った技術と独自材料「リカロイ™」を用い、当社のグループ会社である、アルプス・グリーンデバイス(株)が「リカロイ™インダクタ」及び「リカロイ™リアクトル」を開発しました。

この製品が各種デジタルモバイル機器や産業機器に組み込まれることで、「リカロイ™」の特性を生かして電力変換の損失の低減化が可能になり、消費電力を減らし、電力の高効率利用に貢献しています。他社の同様の製品と比較すると、発熱で失われる電力量が低い業界ナンバーワンの低損失を誇り、現在、長時間駆動のノートPC、スマートフォンなどのモバイル機器や、各種産業用機器に採用されています。

各種のデジタルモバイル機器などが抱える大電流対応と小型化の相反する問題の解決が可能です。

アルプス・グリーンデバイス(株)は、2010年の設立以来、独自の低損失磁性材料及び小型化を実現する薄膜プロセス技術を用いた環境対応型製品を開発・量産化しています。膨大な電力消費が社会問題となりつつあるデータセンター・基地局などのITインフラ、軽量化が燃費に直結するハイブリッドカーや電気自動車など、大電力・中電力の電力変換回路へ展開を図ります。

アルプス電気グループは、環境エネルギービジネスの事業化を通じ、環境とエネルギーが調和した低炭素・省資源化社会の実現を目指していきます。

ALPS REPORT

第82期 第2四半期報告書

アルプス電気株式会社 2014年11月27日発行



ALPS
SHOW
2014
YOU MEET COMFORT

特集

ALPS SHOW 2014

NO.157

Top Message

皆様へ

ごあいさつ

落ち葉が舞い、冬の訪れを感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

当上半期における世界経済は、米国では雇用情勢の着実な改善と堅調な個人消費に支えられ、景気は緩やかに拡大しました。欧州では一部に政情不安などから不安定な状況も見られましたが、ドイツや英国などでは所得環境の改善が続いています。一方、中国では消費の伸び悩みなど経済成長に減速感が見られ、新興国でも通貨・金融の不安などから、それぞれ景気の伸びは鈍化しました。日本経済におきましては、円安基調を背景とした輸出企業の収益改善がありました。消費税増税に伴う反動減からの回復ペースが弱く、持ち直し傾向にあった景況感は鈍化しました。

当エレクトロニクス業界におきましては、民生機器が依然として低調に推移したものの、自動車需要は米国や新興国を中心とした主要各国で堅調に推移し、スマートフォンは主要メーカーでの新製品投入や中国メーカーによる低価格帯の機種が需要を喚起するなど、それぞれ引き続いて拡大傾向となりました。これらを背景に、当社の上半期の業績につきましては、車載向け及びスマートフォンに使用される電子部品が大きな伸びを示し、売上、利益ともに前年同期実績を上回る結果となりました。

さて、去る9月、2年に一度のプライベートショー「ALPS SHOW 2014」を本社ビルで開催し、来場者数、商談件数ともに前回は大きく上回るなど大変な盛況となりました。今回は、注力技術であるヒューマン・マシン・インタフェース(HMI)、センサ、コネクティビティのうち、特にセンサとコネクティビティで、車載や新市場へ向けた新製



品を数多く出展しました。その結果、多くのお客様より「従来の機構部品によるHMI中心のアルプスから大きく変わり進化した」との好評価をいただきました。

また、抽選によりご招待した個人株主の皆様にもご来場いただき、あわせて株主様説明会にもご参加をいただきました。

今回の出展製品は10月初旬に開催された「CEATEC JAPAN 2014」にも出品し、テレビを始めとする各種マスコミにも取り上げられるなど、大きな話題となりました。

今後、既存製品はもとよりこれらに出品した多くの新製品をいち早く拡販につなげ、更なる業績向上への取り組みを加速させる所存です。

皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長

栗山年弘



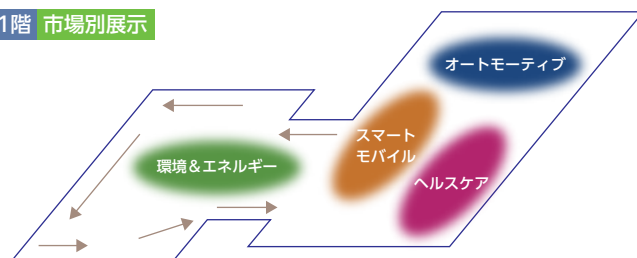
人と地球にやさしい、快適な未来を。



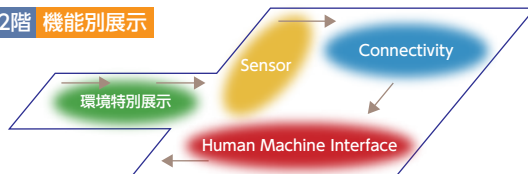
9月18～19日、お取引先様や業界関係者の方々などを対象に、当社の新製品・新技術を提案する「ALPS SHOW 2014」を本社ビル(東京都大田区)にて開催しました。

40回目を迎えた今年のテーマは「人と地球にやさしい、快適な未来を」。来場頂いた多くのお客様から好評を博し、数多くの商談やお問い合わせを頂戴しました。今後、具体的なビジネスにつながるよう注力してまいります。以下ショーの概要をご紹介します。

1階 市場別展示



2階 機能別展示





当社が注力している4市場
 「環境&エネルギー」「ヘルスケア」
 「スマートモバイル」「オートモーティブ」
 での新製品・新技術をご提案しました。



Smart Mobile

スマートモバイル

昨今、幅広く普及しているスマートフォンやタブレット端末などモバイルデバイスの更なる小型・高性能化のため、当社技術によって具現化したさまざまな製品を展示。

今後、普及が期待されるウェアラブル端末では、指輪やブレスレット、メガネなどのアプリケーションにより、実際に体感頂ける展示を行いました。



次世代型ウェアラブル製品



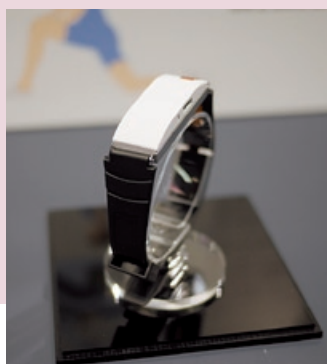
配電用機器

Environment & Energy 環境&エネルギー

地球環境にやさしい低炭素社会の実現に貢献する、各種アプリケーションや電流センサ、リカロイ™などのデバイスをはじめ、高効率な電力変換やITを活用したxEMS(エネルギー管理システム)に寄与するグリーンデバイス等、豊富な搭載事例やシステム提案を展示しました。

医療の高度化、在宅での健康管理や治療などが重視される社会ニーズを背景に、手軽に健康管理ができるウェアラブル用アプリケーションや日常のヘルスケアをサポートするバイタルセンサ、医療機器の小型・高性能化が可能なレンズや流路など、さまざまな製品を提案しました。

Healthcare ヘルスケア



バイタルセンサ

Automotive オートモーティブ

電子化・ネットワーク化が進行し、従来の移動手段としてのクルマの概念から大きな変化を見せる自動車市場。新たに「安心・安全・快適」な車社会を実現すべく、当社の先進技術を生かしたさまざまな製品を提案しました。なかでも、将来の標準化を目指す「次世代プレミアムコックピット(※注目の新技術参照)」は、来場したお客様から熱い注目を集めました。



タッチパッド内蔵ロータリスイッチ

「Sensor」「Connectivity」
「Human Machine Interface」
の3つの機能に分類し、それぞれのコア技術を生かした製品や技術のご提案を行いました。

Sensor

微細な変化を正確に検知するセンシング技術を生かした、気圧や光などの環境情報、位置や傾き、電流など、さまざまな検出ニーズに応える各種センサ製品を展示しました。



注目の
新技術

次世代プレミアムコックピット

近未来の車社会の「安心・安全・快適」を実現する次世代プレミアムコックピットを展示。当社が長年培ってきたセンシング技術、HMI(ヒューマン・マシン・インタフェース)、光学技術など、最先端の技術を結集。18インチの大画面フルカラーHUD*を採用し、フロントガラスにスピードメーターなどの情報をデジタル表示。また、ウェアラブル端末を利用し、自動車のロックや解除、ドアの自動開閉などを可能にするほか、

ドライバーの健康状態を検知システムが認識して、走行時の安全運転への注意喚起を促すなど、最新技術を駆使したコックピットとなっています。
※Head-Up Display(ヘッドアップディスプレイ)の略

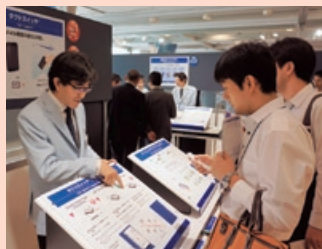


Connectivity

プレゼンテーションステージでは、ITS(高度道路交通システム)社会を視野に、業界に先駆けて開発した次世代通信モジュールを紹介。精密加工技術による小型メモリカード用コネクタや、高周波技術とソフトウェアを生かしたBluetooth®、Wireless LAN、LTEなどのデータ通信モジュールを展示しました。

Human Machine Interface

徹底的に操作フィーリングにこだわり続け、人にやさしい、使いやすい製品づくりに注力しています。防水・防塵規格(IP67)に対応し、耐久性を高めるなど、業界最小クラスを実現したタクトスイッチ®のほか、タッチフィーリングの向上や湾曲するタッチパネルなど新しい入力デバイスを体感頂きました。



個人株主様「ALPS SHOW 2014」ご招待



9月20日、抽選による個人株主様をご招待し、見学会を行いました。なお見学会に先立ち、「個人株主様説明会」を開催。米谷専務取締役から業績やショーの見どころなどについて説明し、当社へのご理解を深めて頂きました。

2014年9月

- アルプス・マレーシア創立25周年
- 世界最小クラス「車載用LTEモジュール」の2015年度製品化を発表
- 株式会社ジェイエヌ様の次世代戦略商品「JINS MEME」の開発サポート実施を発表
- 「ALPS SHOW 2014」開催
- 電子部品の通信販売サイト「アルプス電気Yahoo!店」を開設
- アルプス上海国際貿易、アルプス通信デバイステクノロジー上海が第5回中国国際センサーネットワーク博覧会(中国無錫市)に初出展

2014年10月

- モバイルディスプレイの長時間駆動に貢献する「リカロイ™チップタイプパワーインダクタ」を発表
- 「CEATEC JAPAN 2014」に出展
- 古川工場開設50周年
- 各種モバイル機器向け「タクトスイッチ®サイドプッシュ基板落とし込みタイプ」を発表
- 2014年度第2四半期決算、業績修正(上方)を発表

アルプス・マレーシア創立25周年

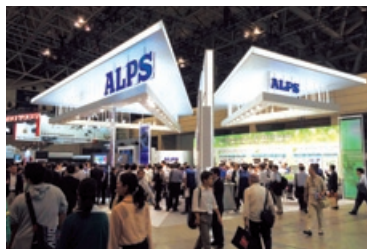
当社の海外現地法人「アルプス・マレーシア」は、本年創立25周年を迎え、9月に現地社員、OBを中心に約1,950人が参加した記念イベントを開催しました。

同社は1989年、ニライ地区で操業を開始し、スイッチやチューナ、磁気ヘッドなど、さまざまな製品を生産。90年代には、ジェンカ地区にも工場を構え、当社グループ最大の海外生産拠点として、世界各地へ製品を供給していました。現在「ASEAN+インド」で大きな経済成長が見込まれるなか、同地域の事業拡大の拠点として重要な役割を担っています。

また、マレーシアという国柄から、多国籍、多民族で構成される同社では、グローバルビジネスで重要視される「ダイバーシティ経営」が進められています。

今後、より一層「ダイバーシティ経営」を進め、この地域でのビジネス拡大の拠点事業所として、更なる成長を目指します。

「CEATEC JAPAN 2014」に出展



来場者の注目を浴びる当社ブース

10月7～11日、当社は千葉市の幕張メッセで開催された最先端IT・エレクトロニクス総合展「CEATEC JAPAN 2014」に出展。

オートモーティブ、スマートフォン＆ウェルネス、環境・エネルギーの各市場向けに、独自技術を生かした、新製品や新技術を紹介しました。

マスコミ各社やテレビ局による撮影、取材も連日活発に行われ、来場者からも高い関心をいただきました。



センサネットワークモジュールが「米国メディアアパレルイノベーションアワード電子部品部門賞」を受賞

古川工場開設50周年

当社古川工場(宮城県大崎市)は、1964年の工場開設以来、本年で50周年を迎えました。この10月、開設以来、多大なご支援・ご協力を頂いてきた地域の皆様、地元自治体、近隣企業やお取引先様などを迎え「新製品・新技術展」「感謝パーティー」など、さまざまな記念式典を執り行いました。

当工場は「地域の発展に役立ちたい」という理念のもと、事業規模を拡大し、現在では自動車やスマートフォン向けなどの部品が主力製品となり、2,000名を超える従業員を抱える当社国内最大の事業所となりました。また、全世界に展開するビジネスの中核を成すエンジニアリングセンターにもなっています。

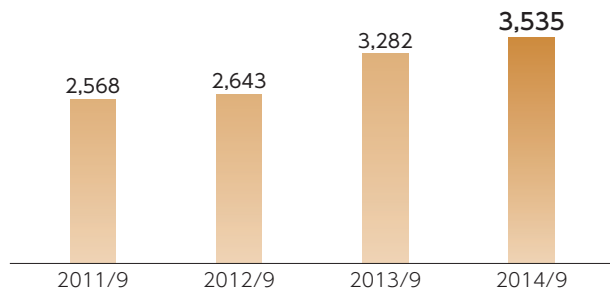
当社は、地域の皆様と共に末永く発展できるよう、鋭意、努力を続けていきます。

財務ハイライト

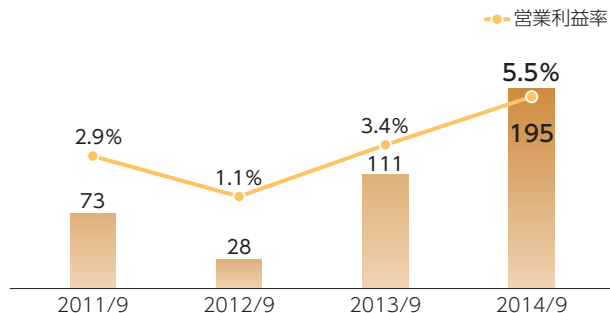
2014年4月1日～2014年9月30日

連結業績の概況

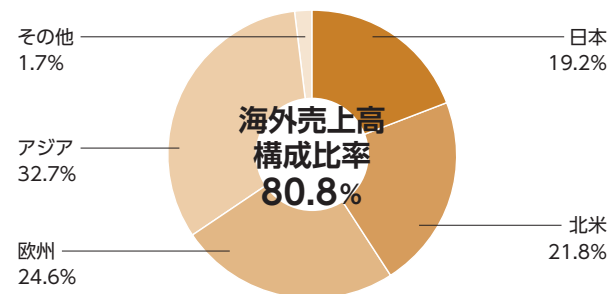
売上高 (単位：億円)



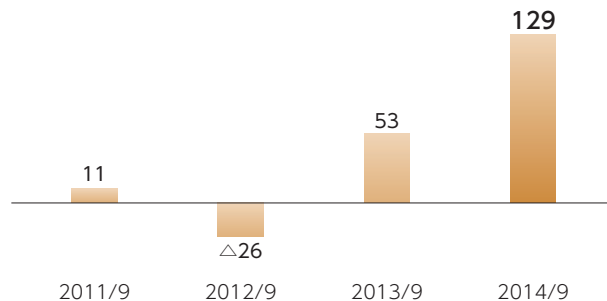
営業利益・営業利益率 (単位：億円)



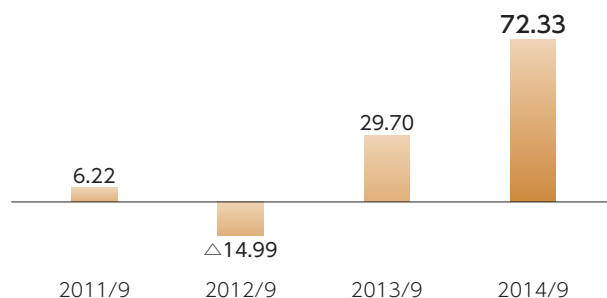
地域別売上高構成比



四半期純損益 (単位：億円)



1株当たり四半期純損益 (単位：円)



通期の見通し

2015年3月期 業績予想 (2014年10月31日修正開示)

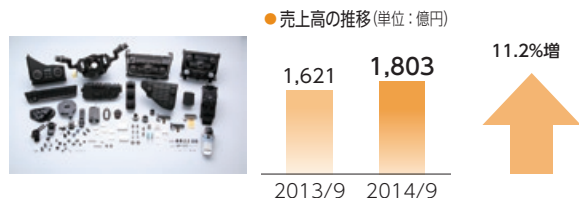
売上高	7,100億円	(前期比 3.7%)
営業利益	410億円	(前期比 43.7%)
経常利益	395億円	(前期比 40.6%)
当期純利益	245億円	(前期比 71.2%)

※想定為替レート：1ドル = 105円
1ユーロ = 135円

事業別の概況

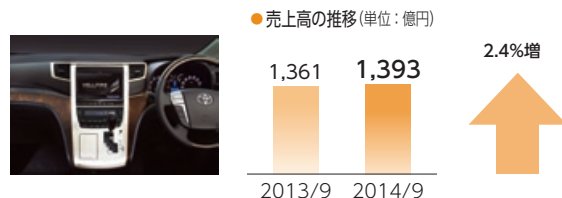
2014年4月1日～2014年9月30日

電子部品事業



自動車市場での安全、省エネ、快適性の実現に向けた新車開発が活発化し、カーエレクトロニクス化に拍車がかかる中で各種電子部品やモジュール製品の搭載が進みました。一方、民生機器ではスマートフォン向けの電子部品が着実な伸びを示しました。

車載情報機器事業



アルパイン(株)(東証一部)では、北米市販市場にピックアップトラックやSUV向け、欧州市販市場では高級車向け車種専用大画面ナビゲーションの新製品を投入しました。また、国内市販市場向けに世界最大サイズ10インチ大画面ナビゲーションを新たに投入し、競合他社との差別化を図りました。

車載市場



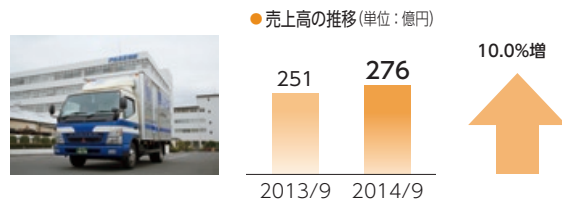
車載市場では、人と車をつなげるヒューマン・マシン・インタフェースの領域を更に深耕して、スイッチやセンサをはじめ、各種操作入力用モジュールなど独自製品の開発に注力し、各自動車メーカーに対して技術イノベーションによる近未来を見据えたさまざまな提案を行うとともに、次世代型の新製品を投入しました。更に当社のグローバル生産及び販売ネットワークの拡充や、より一層の品質強化を推進したことなどにより、概ね順調に推移しました。

民生その他市場



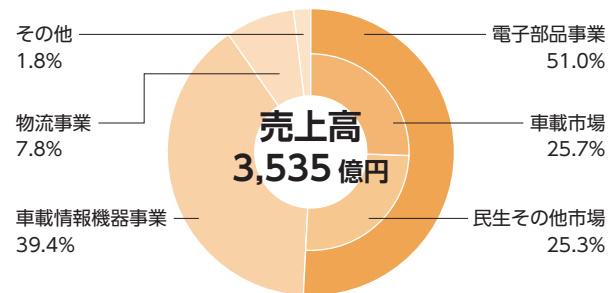
民生その他市場では、テレビやデジタルカメラなど民生機器向けの電子部品が低調な中、大型新製品の投入や市場規模の拡大がより一層進むスマートフォン向け製品では、高品質かつ確実な生産対応を進めるカメラ用アクチュエータや各種スイッチ等のコンポーネント製品が順調な伸びを示し、売上高・利益ともに前年同期を上回る結果となりました。

物流事業



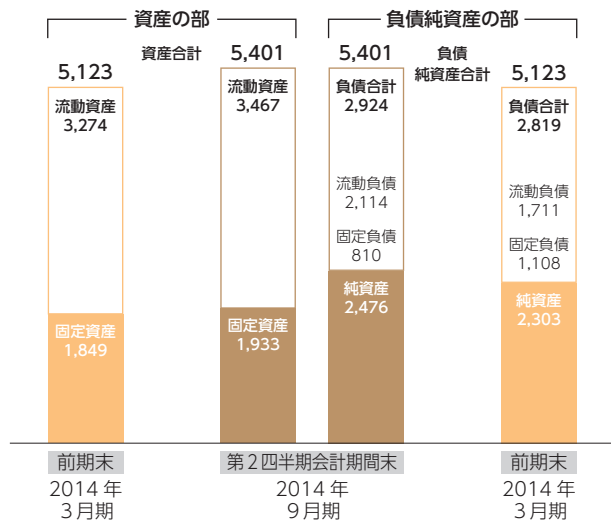
(株)アルプス物流(東証二部)では、グローバル・ネットワークの拡充や、国内・海外が一体となった提案営業を推進するとともに、運送・保管・輸出入各事業それぞれの生産性向上に取り組みました。グローバル・ネットワークの拡充において、韓国では海上輸送の国際ハブ地域である釜山に事務所を開設した他、IATA(国際航空運送協会)の航空貨物代理店ライセンスを取得して貨物の取扱拡大を推進しました。

事業別売上高構成比



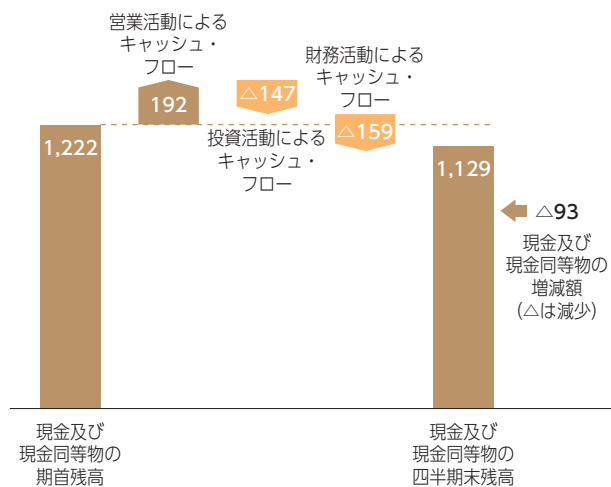
連結貸借対照表の概要

(単位: 億円)



連結キャッシュ・フローの概要

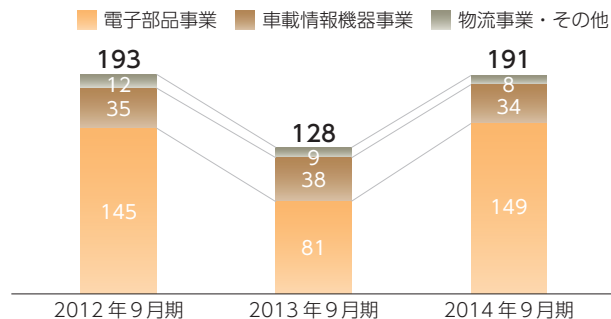
(単位: 億円)



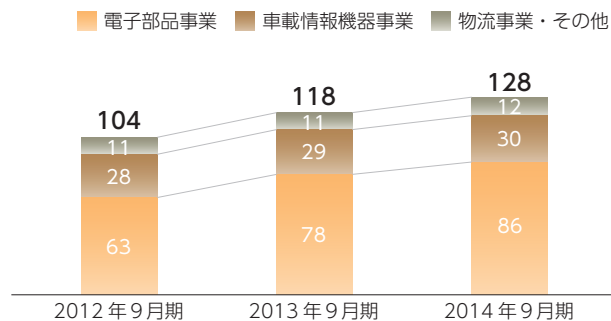
設備投資・減価償却・研究開発の推移 (単位: 億円)

※内訳には連結消去を含んでおりません。

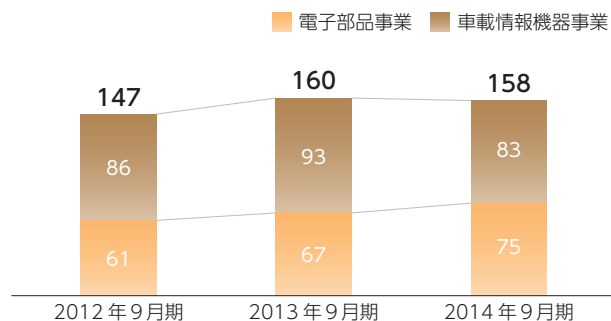
設備投資



減価償却費



研究開発費



株式情報

■ 株式状況

会社が発行する株式の総数 発行済株式総数
500,000,000 株 **181,559,956 株**

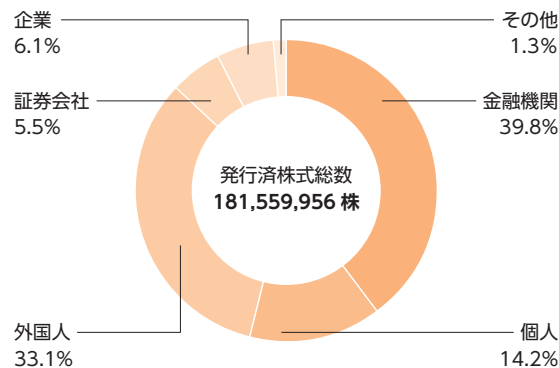
■ 大株主の状況

(2014年9月30日現在)

順位	株主名	株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,954,800	11.54%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	17,601,500	9.69%
3	株式会社東芝	4,075,200	2.24%
4	三井住友海上火災保険株式会社	3,596,400	1.98%
5	三井生命保険株式会社	3,591,000	1.98%

■ 所有者別分布状況

(2014年9月30日現在)



(注) その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式です。
 (注) 個人は、個人・持株会名義の株式です。

IR情報Webサイトのご案内

IR情報

直近の財務諸表からよく頂くご質問まで、分かりやすいメニュー構成で必要な情報入手できます。2014年の主なIR活動のカレンダーも掲載しておりますのでご確認ください。



IRニュース

当社株式に関連する新しいニュースが掲載されているコーナーです。

<http://www.alps.com/j/ir/index.html>

■ 会社の概要

(2014年10月31日現在)

社名 アルプス電気株式会社
 英文社名 ALPS ELECTRIC CO., LTD.
 本社 〒145-8501
 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
 TEL. (03)3726-1211 (大代表)
 (03)5499-8026 (IR部門直通)

設立 1948年11月1日
 資本金 23,623,571,711円
 発行済株式総数 181,559,956株

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
 基準日 定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日
 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日
 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日
 その他あらかじめ公告して定めた日

定時株主総会 毎年6月下旬
 公告掲載 電子公告により、当社ホームページ
 (<http://www.alps.com/j/ir/index.html>)
 に掲載します。なお、やむを得ない事由により、
 電子公告ができない場合は、日本経済新聞に
 掲載します。

上場証券取引所 東京(第一部)証券コード6770
 1単元の株式数 100株

株主名簿管理人及び
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 ホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

三菱UFJ信託銀行証券代行部

【ご注意】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター
 お問い合わせ ☎0120-232-711
 (受付時間:土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00)

住所変更等諸届用紙ご請求 ☎0120-244-479 (24時間受付)